

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No.	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6~7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
1		商店街に賑わい形成促進事業費	商店街の販売促進活動や異業種交流等及び来街者の利便性の向上等に向けた環境整備に係る経費を支援することにより、中心市街地の賑わい創出、産業振興を図る。	鳥取市商業振興補助金 ・活動支援事業 9件 ・環境整備事業 0件	中心市街地の賑わい創出、産業振興を図ることを目的に9件の活動が実施され、中心市街地の活性化を図ることができた。	支援内容の見直しを検討しつつ、中心市街地の活性化を図る取り組みを支援していく。	経済観光部	経済・雇用戦略課	162
2	○	街なか居住推進事業費	住まいに関する総合的な相談窓口の設置や街なか居住に関する情報発信、空き家を活用した居住に関する支援などを行うことにより、中心市街地への転入促進を図る。	住まいに関する総合相談窓口の設置 ・相談件数 76件 ・住まいの情報ネットワークの整備運営 街なか居住推進のための公的支援の実施 ・鳥取市まちなか空き家改修支援事業補助金による支援 0件 ・鳥取市まちなか空き家等残置物処分支援事業補助金による支援 1件 ・空き家利活用団体支援事業での「とっとり空き家利活用推進協議会」活動の支援 街なか居住体験施設整備運営事業の実施 ・空き家の借上げ及び施設の運営 ・利用実績 10件	第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画の目標指標である「中心市街地の45歳未満居住人口（社会増減数）」は、令和3年度以降減少傾向であり、既存の取組の見直しを含め、若年層の居住促進につながる、より効果的な取組の検討を行っていく必要がある。	第4期鳥取市中心市街地活性化基本計画の目標の一つである「若年層のまちなか暮らしの促進」を実現していくため、既存の支援制度などの取組に加え、街なか居住体験施設の利便性向上に資する取組を講じていく。	都市整備部	まちなか未来創造課	227
3	○	遊休不動産利活用推進事業費	官民連携により一定のエリアで集中した事業化に取り組み、エリア価値を高めるとともにその効果を中心市街地全体に波及させることを目指す。また、まちづくりに関するプレイヤーが活動しやすい環境づくりを行うことで、民間主導の持続的なまちづくりを促進する。	・空き会議および遊休不動産活用支援制度等の利用促進に向けたチラシの戸建てホスティング 2,680件 ・空き会議の開催 ・内閣府主催 中心市街地活性化ラボin鳥取～リノベーションによるまちなか再生を考える～の受入対応 ・民間まちづくり会社との連携、伴走支援の実施 ・まちづくりワーケーションプログラムの実施 ・まちづくりワーケーションプログラムの実施実施期間11月末～2月末 参加者数延べ90人 ・リノベーション事業化推進補助金による支援2件	民間まちづくり会社との連携および補助事業による支援により、中心市街地にある遊休不動産の利活用が進んだ。また、まちづくりワーケーションプログラム等の実施により、遊休不動産等を活用した事業化の推進やまちづくりに関わる新たなプレイヤーや企業の発掘に繋がった。	中心市街地の遊休不動産を活用したまちづくりの促進に向けては、物件の所有者や個人のプレイヤーのみならず、地元企業の巣立ちなど、様々な主体の参画が必要となっている。今後も、鳥取市中心市街地活性化協議会や民間まちづくり会社と連携し、様々なステークホルダの参画を促すことで、民間主導の持続的なまちづくりの促進を行っていく。	都市整備部	まちなか未来創造課	228
4	○	中心市街地活性化助成事業費	中心市街地区域内における民間イベント等の開催を支援し、中心市街地の集客と賑わい創出を図るほか、中心市街地の活性化に取り組む人材育成につなげる。	鳥取市中心市街地賑わい活力向上事業補助金（賑わい創出イベント開催事業）の交付 ・補助件数 10件 ・参加者数 19,371人	件数、参加者数とともに増加し、中心市街地の賑わい創出に寄与した。	引き続き中心市街地エリアでのイベント開催を支援するとともに、より良い支援の在り方にについて検討していく。	都市整備部	まちなか未来創造課	228
5	○	中心市街地活性化推進事業費	中心市街地活性化基本計画に掲載する事業を推進し、中心市街地の活性化を図る。具体的には、中心市街地に関する市民への情報発信として、エリア情報誌「わっか」の作成や、来街者の回遊性を高めるためのルートマップ「まちなかマップ」の発行、デジタルサイネージの活用等を行う。	・中心市街地エリア情報誌「わっか」の発行(11,800部×3回(7月・11月・3月)) ・WEB版「わっか」の運用(投稿回数34回) ・まちなかデジタルサイネージの運用(常設) ・中心市街地回遊ルートマップ「まちなかマップ」の発行(1,000部)	SNSをはじめ、様々な情報発信手段を活用し、幅広い世代に対してまちなかの情報を発信することができた。	まちなかの情報を中心に平成22年より継続して発行している中心市街地エリア情報誌「わっか」をはじめとする各種情報発信方法について、内容の充実や知名度向上を図り、情報発信の効果を高めていく。	都市整備部	まちなか未来創造課	229

【基本施策を推進する実施計画の事務事業】

No.	総合戦略事業	事務事業名	事業の概要 (令和6~7年度)	事業の成果 (令和6年度)	施策への貢献度 (実績)	今後の課題・方向性	部局名	課名	関連事業 (決算事業別概要ページ)
6	○	まち歩き推進事業費	XR技術を活用し、まちなかでARコンテンツをスマートフォンに表示させ、普段のまちなか歩きをもっと楽しくする取組を行い、中心市街地全体への回遊性・滞留性の向上を促進し、まちなかの賑わいを創出する。	・中心市街地でのARを活用したまち歩きスポットの構築 継続3カ所 新規1カ所	ARを活用した賑わい創出の取組であったが、コンテンツの延べ体験者は444人であり、大きな成果を得るまでには至らなかった。	XR技術を活用した取組のみでは、市民等のまち歩きを促進することが困難であった。今後については、どのようなコンテンツであれば、居心地が良く歩きたくなるまちづくりの実現化に繋がるのか検証するため、鳥取市中心市街地活性化協議会が実施する袋川周辺エリアの公共空間などを活用した実証事業に対して支援を行い、まち歩きの推進を図っていく。	都市整備部	まちなか未来創造課	229
7	○	鳥取駅前太平線再生プロジェクト事業費	市道駅前太平線「バードハット」の活用やイベントの経費の補助により、鳥取駅周辺への集客による賑わい創出を図る。	鳥取市中心市街地賑わい活力向上事業補助金（市道駅前太平線賑わい空間活用事業）の交付 ・イベント開催回数 22件 ・補助件数 4件 ・参加者数 29,000人	補助事業を含め、イベント開催回数はコロナ禍以前の水準を取り戻してきており、集客による賑わい創出につなげられた。	引き続き、新鳥取駅前地区商店街と連携し、バード・ハットを活用したイベント開催の促進を図っていく。 併せて、イベントが開催されていない平日の活用策について検討していく。	都市整備部	まちなか未来創造課	230
8	○	鳥取駅周辺再整備推進事業費	令和6年6月に策定予定の「鳥取駅周辺再生基本計画」をもとに、鳥取駅周辺の交通量調査やサウンディング調査などを実施し、交通ターミナルや複合施設の規模や配置、整備手法など、再整備に関する詳細な内容を示す「鳥取駅周辺再生整備計画」の策定（令和7年度中）を目指す。	・鳥取駅周辺リ・デザイン会議の開催 2回 ・鳥取駅周辺再生整備計画策定業務 3/28完了 ・整備手法検討調査業務 3/14完了 ・住民調査業務 ワークショップ4回 ・市民フォーラムの開催 1回 160名参加	令和6年度は市民ワークショップやサウンディング調査、各種専門部会の開催などにより、鳥取駅周辺に望まれる機能・規模等を検討し、「鳥取駅周辺再整備計画」の策定に向けて議論を深めることができた。また、市民フォーラムを開催し、駅周辺再整備の機運の醸成を図ることができた。	駅周辺の交通実態や市民の意見、民間企業の投資意向など、整備計画の策定に不可欠な各種データの収集・分析を行ながら、整備コンセプトや各施設の配置計画について専門家会議で議論を重ねてきたところであり、こうした取組の結果を踏まながら、整備計画の策定を進めていく。	都市整備部	まちなか未来創造課	230
9	○	旧本庁舎跡地にぎわい創出事業費（物価高騰対応臨時交付金）	旧本庁舎跡地において、ウォーカブルなまちづくりやまちなかにぎわい創出に寄与するイベントを実施し広域からの集客性を高めるとともに、中心市街地の他の施設や商店街等と連携し、回遊性を向上させることで、地域活性化を図る。	旧本庁舎跡地での賑わい創出イベント実施 6回	旧本庁舎跡地を拠点とした市民・団体・企業等と連携したイベントを開催することで、中心市街地への人流が増え、地域の活性化やまちなかの賑わい創出に資することができた。	旧本庁舎跡地の利活用は中心市街地の活性化に影響を与える重要な検討事項である。賑わい創出につながる事業の検討とともに跡地の整備を推進し、本市の地域活性化を図る。	企画推進部	政策企画課	302